



R.Kaji

THE TOKYO CHUNICHI SPORTS HAI
MUSASHINO STAKES

第29回 東京中日スポーツ杯 武蔵野ステークス (GⅢ)

1着 賞 40,000,000円 2着 賞 16,000,000円 3着 賞 10,000,000円 4着 賞 6,000,000円 5着 賞 4,000,000円
付加賞 546,000円 156,000円 78,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

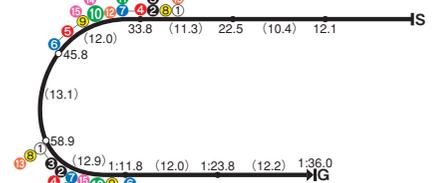
3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳56^{kg}、4歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2023.11.11以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2023.11.10以前のG I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.11.9 東京 晴・良 ダ1600m (国際) (確定)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑩	エンペラーウケア	牡4	57	川田将雅	1:36.0	5-4	36.5	538(+2)	1.7(1)	杉山晴紀(栗東)	111
2	③	カズベトシオン	牡4	57	西村淳也	1	14-13	35.3	496(+8)	16.8(5)	池添 学(栗東)	109
3	④	ベリエール	牡4	57	石川裕紀人	ハナ	10-10	36.1	488(-4)	13.3(4)	黒岩陽一(美浦)	109
4	⑨	ベイシャエス	牡5	57	横山和生	1	3-3	37.1	498(-2)	7.2(3)	小西一男(美浦)	108
5	⑭	サンライズホーク	騾5	57	M.テムロ	クビ	5-4	37.0	510(-5)	33.2(8)	牧浦充徳(栗東)	
6	⑦	エルゲルージ	牡5	57	藤岡佑介	クビ	8-8	36.8	516(-8)	58.2(1)	石坂公一(栗東)	
7	⑪	ショウナンライシン	牡4	57	柴田善臣	1¼	8-8	36.9	488(-4)	20.6(6)	大竹正博(美浦)	
8	⑫	タマモロック	牡4	57	R.ムアア	アタマ	7-6	37.2	506(±0)	4.9(2)	伊藤圭三(美浦)	
9	①	ビヨンドザファザー	牡5	57	北村友一	¾	14-13	36.1	512(+6)	32.1(7)	藤岡健一(栗東)	
10	⑧	キタノヴィジョン	牡7	57	戸崎圭太	1	11-12	36.8	496(+4)	48.2(0)	菅野浩二(美浦)	
11	⑥	サヴァ	牡6	57	岩田康誠	ハナ	13-13	36.3	520(-10)	129.4(3)	上村洋行(栗東)	
12	②	ゼットリアン	牡4	57	大野拓弥	3	11-10	37.4	438(±0)	179.5(9)	吉田直弘(栗東)	
13	⑤	メイショウテンスイ	牡7	57	吉田 豊	7	2-2	39.7	528(-3)	64.2(2)	河内 洋(栗東)	
14	⑬	イーグルノワール	牡3	56	菅原明良	クビ	3-6	39.1	528(+10)	45.1(9)	音無秀孝(栗東)	
15	⑥	ドルチェモア	牡4	57	三浦皇成	大差	1-1	47.2	474(+2)	226.8(5)	高橋一哉(栗東)	

単勝⑩170円(1¼%) 複勝⑩120円(1¼%) ⑬320円(5¼%) ④240円(4¼%) 枠連⑥-⑦320円(1¼%)
馬連⑩-⑬1,690円(5¼%) ワイド⑩-⑬670円(6¼%) ④-⑩540円(3¼%) ④-⑬2,770円(30¼%)
馬単⑩-⑬1,960円(6¼%) 3連複④-⑩-⑬5,610円(17¼%) 3連単⑩-⑬-④17,570円(45¼%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
33.8 - 45.8 - 58.9 50.2 - 37.1

アラカルト

- 川田将雅騎手は武蔵野S初勝利。JRA重賞は24年9勝目、通算139勝目
- 杉山晴紀調教師は武蔵野S初勝利。JRA重賞は24年4勝目、通算21勝目
- ロードカナロア産駒はJRA重賞通算76勝目
- 4歳馬の勝利は23年ドラइスタウトに続く通算4回目
- エンペラーウケアの馬体重538^{kg}は13年ベルシャザールの馬体重536^{kg}を更新する本競走優勝馬の最高馬体重記録
- 単勝170円は同式別における本競走の最低払戻金額
- エンペラーウケアはチャンピオンズC(G I)に優先出走できる

エンペラーワケア *Emperor Wakea*

牡 鹿毛 2020.5.2生
北海道日高町 下河辺牧場生産
馬主・草間庸文氏 栗東・杉山晴紀厩舎
馬名意味・皇帝+ハワイの神様の一人

カラズマッチポイントUSA系 F23

ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サラトガデュースUSA
カラズマッチポイントUSA Kara's Match Point 栗毛 2010	Curlin 栗毛 2004	Smart Strike Sherriff's Deputy
	Home Court 栗毛 2001	Storm Cat Jewel Princess

5代までのインブリード：Storm Cat S3×M3 Mr.Pro prospector S4×M4

INTERVIEW

下河辺行雄代表(下河辺牧場)

力をつけていることを実感しました

最後の直線入口で不利を受けた時は正直、負けたと思いましたが、その後前が空いて突き抜けてきた姿にとっても驚きました。ジョッキークの腕っぷしと咄嗟の判断のお陰もありますが、馬自身に力と強い気持ちがなければあんなレースはできなかったと思います。本当に力をつけていることを実感しました。25年はさらに大きなところを狙って頑張してほしいと思います。

M.Takahashi



2着を外したのは芝1600mの新馬戦(5着のみ)。2戦目からは一貫してダートの1400m戦に使われてきた本馬は、前走までの通算成績が9戦6勝2着2回と抜群の安定感を誇る。1月の根岸Sで重賞初制覇を果たした後は、レース間隔を考慮してひと息入れたものの、この日は1台の延長も難なくクリア。同舞台で争われるフェブラリースに向け、大きな収穫となる勝利を掴んだ。

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 詳細はP.4参照

母カラズマッチポイントUSA

北米14戦1勝。16年輸入

ルミナスソードUSA(16 牝父Candy Ride)中央1戦0勝

サンライズラポール(17 牝父Constitution)持込 中央23戦4勝(テレビ静岡賞、吾妻小富士S⁹、2着、バレンタインS⁹、3着)、地方10戦0勝(摂津盃3着)

アレグリッシモ(18 牝父ドゥラメンテ)中央1戦0勝

アスクオンディーブ(19 騏父ディーブインパクト)中央13戦3勝 @

エンペラーワケア 本馬(20 牝父ロードカナロア)中央10戦7勝(武蔵野S^G_m、

根岸S^G_m、エニフS・L、御影S、ドンカスターC)

獲得総賞金167,381,000円

(23 牝父エビファネイア)

(24 牝父モーリス)

※21(前年種付せず)、22(不受胎)

祖母ホームコート Home Court

アメリカ産 北米2勝(アイオワオークス^G₃3着)

エンクロージャー Enclosure(10 騏父Unbridled's Song)北米5勝

カラズマッチポイントUSA(10 前出)

クードグラス Coup de Grace(11 牝父Tapit)北米5勝(アムステルダムS

^G₂、ベイショアS^G₃、オーセイS、キングズビショップS^G₁3着)

ダンシングラズUSA(14 牝父Union Rags)北米2勝(アルシバパイディーズS^G₁)、輸入繁殖牝馬

曾祖母ジュエルプリンセス Jewel Princess

アメリカ産 北米13勝(BCディスタフ^G₁、サンタマルガリータH^G₁、ヴァニ

ティH^G₁、サンタマリアH^G₁、ラカナダS^G₂)、米古牝馬チャンピオン

ファインジュエル Fine Jewel(99 牝父Storm Cat)不出走、**エルカバリ**

El Caballo(E Rブラッドリー大佐H・米^G₃、マーヴィンムニスジュニアメモリアルH・米^G₂2着)の母

ワンナイスキャット One Nice Cat(00 牝父Storm Cat)北米、愛4勝(ボリネシアンS・米、I CライトメモリアルデイH・米L3着)

ホームコート Home Court(01 前出)

マリスター Maristar(07 牝父Giant's Causeway)北米、英5勝(ワシントンパークH・米^G₃2着、チルッキS・米^G₂3着)

GI獲りへの足場を固めた重賞2勝目

チャンピオンズCの前哨戦と位置付けられている武蔵野Sだが、2024年の主役と目されたのはゴールの先に別の目標を見据える4歳馬。フェブラリースを念頭に挑んできたエンペラーワケアが単勝1・7倍と圧倒的な支持を集めた。結果的にも同馬は着差以上の強さを感じさせる内容で快勝。未知の領域といえたマイルの距離に十分な適性を示して重賞2勝目を挙げ、GI獲りへの足場を固めた。

お互いに譲らない構えで飛び出したドルチェモアとメイシヨウテンスイの主導権争いは前者に軍配。かなり速い流れ、縦に長い隊列でレースが進むなか、3番人気に支持されたエルムSの覇者ベイシヤエスは離れた3番手、エンペラーワケアの川田将雅騎手は馬と呼吸を合わせながら5番手に腰を落ち着ける。重賞初挑戦ながら東京のダート1600m戦で好走を重ねてきたコース実績を評価され、2番人気の支持を集めたタマモロツクはスタート直後の芝でダツシユがつかなくなったものの、3コーナー手前ではエンペラーワケアの背後までポジションを押し上げた。

オーバーペースで逃げたドルチェモアは4コーナーで失速、残り400m地点では好位を追求していたベイシヤエスとサンライズホークが並んで抜け出す。一方、直線に向いて行き場を失い、後手に回った格好の川田騎手は2頭の間に空いた狭いスペースを狙って反撃。鞍上の指示に鋭く反応したエンペラーワケアが2頭を一刀両断にして先頭に立ち、後方から追い込んできたカズベトシン、ペリエールの追撃も寄せ付けずにゴールを駆け抜けた。